



和光市長 柴崎 光子氏

市長のメッセージ

和光市は、東京都板橋区、練馬区と隣接し、鉄道3路線が乗り入れる和光市駅、東京外環自動車道の2つのインターチェンジを擁し、交通の利便性が高いことに加え、和光樹林公園に代表される緑、湧き水など、生活環境にも恵まれています。

また、理化学研究所、本田技術研究所、司法研修所、税務大学校、国立保健医療科学院など高度な研究・研修機関が集積する場所でもあります。

和光市総合振興計画に掲げた将来都市像である「みんなをつなぐ ワクワクふるさと和光」の実現に向けて、誰もが輝く和光市を目指してまいります。

はじめに

和光市は埼玉県の南東部、都心から20km圏内に位置し、西は朝霞市、北は荒川を挟んで戸田市、東は東京都板橋区、南は練馬区と接している。

1970年10月に埼玉県で29番目の市として誕生して以来、東京の近郊都市として発展し、現在、人口は8万人を超えている。

武蔵野の面影を残した豊かな自然に恵まれており、和光樹林公園の広大な緑、荒川の雄大な流れ、市内各所でみられる湧水や斜面林が、市民の生活に彩りを添えている。

また、新元素「ニホニウム」を発見した理化学研究所をはじめとする高度な研究・研修機関が集積する「知の拠点」としても知られている。

江戸時代、当地には川越街道の白子宿が置かれ宿場町として賑わうなど、交通の要衝として発展した。現在は、東武東上線や東京メトロ有楽町線・副都心線が和光市駅を通過しており、乗り換えなしで東京都心や副都心のほか、横浜方面にも行くことができるなど鉄道の利便性が高い。また、東京外環自動車道の市内の2つのICを利用して関越自動車道、首都高速道路、東北自動車道、常磐自動車道にアクセスが容易であるなど、自動車利用の利便性にも優れている。

都心に近く、交通利便性に優れていることから、若い人の転入が多く、県内では市民の平均年齢が戸田市に次いで2番目に若い、活気のあるまちだ。

和光市版スーパーシティ構想

和光市駅の南側は古くから開発が進み、新たな住宅の供給は難しいものの、北側は、将来的な開発が期待されるエリアとなっている。駅北口では再開発が進んでおり、市ではこのまちづくりを、埼玉県が推進している埼玉版スーパーシティ・プロジェクトに位置づけ、「和光市版スーパーシティ構想」として推進している。

埼玉版スーパーシティ・プロジェクトとは暮らしやすい埼玉の実現に寄与する事業で、「コンパクト」「スマート」「レジリエント」の3つを要件としている。

構想としては、和光市駅北口に隣接している再開発エリアを「交通拠点」、市北部の和光北IC周辺エリアを「産業拠点」として整備し、二つの拠点を自動運転サービスで結ぶ「和光版MaaS」を構築し、市内の各拠点が有機的に結ばれたコンパクトで自立した都市づくりを進めている。



「交通拠点」として整備予定の和光市駅北口再開発ビルの完成イメージ図

「交通拠点」として駅に直結する再開発ビルについては、低層階を商業施設、高層階を住宅とし、屋根付きの広場空間を設けることで、イベントなどの開催により

和光市概要

人口(2023年7月1日現在)	84,418人
世帯数(同上)	43,596世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	42.6歳
面積	11.04km ²
製造業事業所数(経済センサス)	67所
製造品出荷額等(同上)	309.3億円
卸・小売業事業所数(同上)	287店
商品販売額(同上)	2,787.6億円
公共下水道普及率	97.2%
舗装率	95.6%

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 和光市駅
- 東京メトロ有楽町線・副都心線 和光市駅
- 東京外環自動車道 和光ICから市役所まで約1km

地域のにぎわいを創出したり、災害時には帰宅困難者の一時的な滞在場所として利用することを計画している。市北部の「産業拠点」については環境・情報分野などの新産業や物流関連施設などの立地を推進する計画だ。

✨和光版MaaS

和光市では、高齢社会に備えて市民の移動の自由を確保するため、自動運転技術や情報通信技術(MaaSアプリ等)など先進技術の導入により、地域公共交通の充実を図ろうとしている。

2022年度は、和光市版スーパーシティ構想において自動運転バスの運行を計画している、「交通拠点」と「産業拠点」間の一部で自動運転に向けた道路整備を行い、2023年度は当該区間において実証実験を行う。残り区間についても順次、自動運転に向けた道路整備を行う予定で、本格的な運行は2024年度末頃を予定している。



自動運転バスの車両イメージ

✨複合施設「わびあ」が一昨年12月にオープン

老朽化が進んでいた和光市総合児童センターは、隣接する国有地と合わせ、機能・規模を拡大して、2021年12月に、和光市広沢複合施設「わびあ」(表紙写真)としてオープンした。

「わびあ」は、施設整備に係る費用の削減、サービスのさらなる向上を目的に、公民連携事業として実施され、もともとあった総合児童センターとプールに加え、認定こども園、児童発達支援センター、保健センター等のほか、民間が運営する、おふろの王様和光店が設置された。「わびあ」は、和光の「わ」、輪になるの「わ」に、ユートピアや広場・仲間の「ピア」から名付けられ、地域のにぎわいを創出する、市の新たな施設となっている。

総合児童センターには、関東最大級の屋内大型複合遊具「わびあタワー」や公共施設全国初導入となる「HADO」(エネルギーボールを放ち戦うARスポーツ)など、楽しい遊具がいっぱいだ。

おふろの王様和光店は、地下1,500mから湧出する豊富な天然温泉を使用し、白樺林をイメージしたラウンジなどもある。

地域で子育てに奮闘しているママたちが「mamaマルシェ」を立ち上げ、笑顔あふれるイベントを企画するなど、新たなコミュニティが形成されつつある。市民の間で「わびあ」の利用が進むにつれ、市が目指す、「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」に確実に近づいている。

(太田富雄)